

相見
国会
垣任
谷就

「必要な道路」精査へ

地方の財源に対応必要

谷垣第一国土交通相は4日、建設専門紙などとの就任会見を行い、政府が決めた09年度からの道路特定財源の一般財源化について、「忠実に進めていかないといけない」と述べた。その上で、一般財源化の検討に当たって「特に大事なものは、必要な道路が何かというところだ」と指摘。「無駄なものを含めていくのは当然であり、必要な道路は何かをきちんと詰めていく必要がある」と述べ、今後、一般財源化に向け、

必要な道路整備について慎重に検討していく考えを示した。

谷垣国交相は、社会資本整備について、「悪であるかのごとく、極端な議論もある。しかし、人口が減っていく中で、アジアの発展を取り入れていく観点も踏まえ、計画的に推し進めることは大事だ」と述べる一方、「新しく作る時代から変わってきた。メンテナンスなどに重点は移ってくる。時代の変化を踏まえ、社会資本整備を進めていかないといけない」との考えも示した。

今後の住宅政策については「高齢者が増えてくるので、住宅政策という観点だけでは考えられない」との問題意識を示し、介護や社会保障制度のあり方も含めて住宅政策を検討することが必要との考えを示した。このほか、国土交通行政全般への取り組みとしては、「新しいニーズとして、安心・安全や健康、環境などがあり、どうサービスを提供するかを考えなければならぬ」と述べた。

国民の信頼回復に全力

新旧国交相が引き継ぎ式



引き継ぎ式に臨む谷垣国交相と冬柴前国交相

福田改造内閣で入閣した谷垣第一国土交通相と冬柴鉄三前国交相との引き継ぎ式が4日、国交省で行われ、谷垣国交相は幹部職員らに対し「国土交通行政の大きな転換期になっている。国民の信頼をしっかりと取り戻すこと（冬柴前国交相の）」

志を継いで全力でやらせていただく」との抱負を語った。公務員への批判が強いことについて「パッシングに一步引くのではなく、一歩前に出て仕事をしないと信頼回復できない」と士気向上を求めた。

冬柴前国交相は、各施策を振り返った後に道路を述べた。

政策について触れ、「必要な道路はつくらないといけない」と強調。「必要でないようにしてしまったのもわれわれの責任だ」と思う。（道路関係業務の執行のあり方、改革本部の改革を何としても達成していただきたい。信頼を勝ち取るために必須のことだ」と語った。

「道路のことは多くは語りたくない」と冗談交じりに述べ、笑いを誘った場面も。最後は「本当に生涯の思い出」と締めくく